

で、愛媛大学・日本のグローバル化に貢献できるような活動が続けてまいります。

最後に、さくらサイエンスプログラムならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

【参加者概数】

●マラヤ大学とのオンライン交流会

神戸大学の活動報告



伊藤 博通
(神戸大学大学院
農学研究科教授)

スリランカ・インドネシアの 農科大学との交流プログラム

昨年11月に科学技術研修コース「環インド洋におけるSDGs達成のための農業環境工学技術研修」を実施予定のところ、コロナ禍の中で昨年に引き続き中止を余儀なくされました。本コースの来年度への延期はできないので、来年度のさくらサイエンスプログラム新規申請時の研修内容を想定し、留学生の来年度の参加動機を高めるため、JSTの支援により、2021年11月18日にZoomを利用した、さくら招へいプログラム代替オンライン



オンライン交流会

次にZoomのブレイクアウトルーム機能を使用して参加者は上記4グループに分かれ、神戸大学学生による詳細な実験の説明および参加者との質疑応答が行われました。これを2回繰り返したので参加者は最大2つのグループの研修内容について詳細を知ることができました。教員と学生の違いを問わず非常に活発な質疑応答が実施されました。

最後に、説明した研修内容で来年度のさくらサイエンスプログラムに申請し、実施予定であることを確認し、参加国教員は積極的に参加する意思があることを表明しました。半日ではありましたが、参加者の来年度のプログラムへの動機が高まり非常に有意義な交流会でした。

- ・伊藤博通教授・人工気象機内で栽培する薬草の成長を画像解析により非破壊で計測する手法についての説明。
- ・黒木信一郎准教授・異なる温度条件に貯蔵したホウレンソウ葉の脂質過酸化物質や抗酸化酵素活性、DPPHラジカル消去能を計測し、鮮度保持効果の定量的な評価を行う手法についての説明。
- ・井上一哉准教授と鈴木麻里子助教・地下水資源の有効活用に係わる日本特有の地下ダムを対象に、ポラス性の高い岩石とダム止水壁の物性推定や強度特性の計測についての説明。
- ・澤田豊准教授・農業用パイプラインの設計方法、矢板を用いたパイプラインの施工方法とその課題、パイプラインを対象とした模型実験について説明。

マラヤ大学・学生約50名、教員4名
愛媛大学・学生27名、教員6名
●ガジャマダ大学・バンドン工科大学とのオンライン交流会

ガジャマダ大学・学生約60名、教員4名
バンドン工科大学・学生約60名、教員7名
愛媛大学・学生19名、教員4名

イン交流会を実施しました。海外の参加機関はスリランカのルフナ大学農学部農業工学科インドネシアのボゴール農科大学農業工学科およびアングラサ大学農業技術学部です。神戸大学の教員と学生を含め、全参加機関から105名が参加しました。

はじめに土佐幸雄農学研究科長による神戸大学と農学研究科の紹介、農学研究科教務学生係準事務員の堀純子さんによる神戸大学への留学について説明がありました。次に研修コースの概要説明を行いました。この内容は来年度に申請予定の研修内容であります。本研修は4グループで構成されており、次のような説明を行いました。